

「作業療法 × 企業 × 学校 × 行政」の連携で誕生！

『エジソンのお箸ラストステップ』

新潟リハビリテーション大学准教授 丁子雄希

伝統的な箸の持ち方を支援する新しいお箸が完成しました。

作業療法士であれば、これまで市場に出回っている支援箸（バネ付き箸）に限界を感じたことがあるのではないのでしょうか。

思えば、研究を始めてから約 10 年、製品化に向けて動き出してから 2 年の月日が経ちました。ようやく、自身の研究成果が社会に実装されたことに、感慨深い思いです。

このたび株式会社 KJC 様と共同で、伝統的な箸の持ち方を支援する箸を開発いたしました（現在、特許出願中）。

・製品名：エジソンのお箸ラストステップ子ども用／大人用

<https://edisonmama.com/lp/laststep>

国内外の支援箸を取り寄せ、世界中の論文を読み漁り、自身の研究を積み重ね、試作を重ねる中で、多くの方の協力を得ながらようやく形にすることができました。行政や地域の小学校からの多大なご支援にも、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

本製品の目的は、「伝統的な箸の持ち方の型を覚える（体感する）」ことです。

現場ではよく、

「うちの子、不器用で正しく箸が持てないんです」

「箸が持てるようになりたいけど、難しいですよね…」

といった声を耳にします。

実は、器用さと箸の操作との間に相関がないことも報告されており、持ち方そのものは難しいというよりも“慣れ”が必要な場合が多いのです。もちろん、多様な社会の中で伝統的な持ち方を強要する必要はありません。しかし、日本独自のマナー的観点や、摂取量が減ることによる生活習慣病予防、また箸の操作性がもっとも高いといわれる持ち方の獲得など、意義は大きいと考えています。

本製品はシンプルですが、私の研究成果と国内外の知見が詰まっています。ぜひ手に取ってお試してください。現在、全国の子ども用品店（西松屋・トイザラス等）や Amazon 等でも発売しています。少しでも作業療法士の知名度向上や、社会作業療法・学校作業療法の実践に役立てば嬉しいです。

なお、大人用の箸に関しては、病院や施設で利き手交換が必要な方にも活用していただければと思います。

追伸。作業療法士の皆様へ

本製品をご使用の際は、作業基盤の観点で、実際の食事場面での使用を推奨します（訓練室での模擬物品移動ではなく）。事前モニタリング調査では、夕食時のみの使用で伝統的な箸の持ち方が獲得できる結果が得られています。使用後の感想もぜひお聞かせください。



※エジソンのお箸シリーズにおいて

ママ認知度No.1※のエジソンのお箸が お箸博士と共同開発



新潟リハビリテーション大学
作業療法士

丁子雄希先生

早期に正しい持ち方を習得することで食への関心や脳の発育を促し、手先に器用さや集中力が身につくとされています。人間工学の観点から正しい持ち方が身につけやすいお箸を開発しました。